

上下水道工事業における崩壊・倒壊災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労 働 者 規 模
1	9～ 10	鉄板を仮置きするため、4tダンプの荷台から道路脇の法面に移動した。鉄板の一面が地面に設置した際にフックから鉄板が外れ鉄板と4tダンプの間に挟まれた。	51	1 ～ 9
1	12～ 13	送水管を布設した工事現場で、砂を埋戻した後、深さが1.4mと浅くなったので、土留矢板を一度撤去し、送水管布設時に支障のあった下水道管の復旧作業に入る為、被災者が掘削穴に降りた。その時、土留矢板を再設置することにし、矢板の根入れ箇所をスコップで予掘作業に入ったところ、背後側の地山が崩壊し、被災者の背中へ押す形で当たった。その衝撃で反対側のコンクリート製マンホールの壁に頭から突っ込み、ヘルメットが割れ、頭部を骨折した。	35	—
3	9～10	水道配水管埋設工事現場で、ダンプに積載された土留材をバックホウにて吊り降ろしする作業中、オペレーターの指差呼称、周囲の確認不足、及び被災者の足元確認、土留材が転倒するかもしれないという予知不足により、手前の土留材を吊り上げた後、奥の土留材に玉掛ワイヤーをセットしようとした際、突然土留材が転倒し、被災者の右足首が挟まれた。	53	10 ～ 29
6	13～ 14	土場にて、自社事務所建設に伴う給水管・排水管布設作業時に、深さ約150cm、幅約120cm、長さ約400cmの掘削した穴に入り、腰を曲げて床付け・床均しの作業中に、掘削した壁の上部約50cm×50cmが崩れ落ち、腰付近に当たり、右足大腿骨付け根を骨折した。	60	1 ～ 9
		現場において、河水管布設後、山留材（50cmH、2mL、10cmW、鋼製、約100kg）を引き抜き撤去作業中、大雨が降りはじめたので作業員は作業を急いでいて山留材		1

7	15~16	をワイヤー2本で吊るところ1本で吊り引き上げ固定ネジを外したため山留材が外側に倒れ、当日は水場作業のため、貸与安全靴でなく長靴を使用していた本労働者の左足先端に山留材が当たり負傷した。	47	～ 9
9	13～ 14	交通規制帯内で、到達側不断水立杭の底盤薬液注入をボーリングマシンにより作業中、ボーリングマシンのロッド先端に接続しているスィベルの注入ホースがロッドを回転させた時にロッドに巻きついた、注入ホースは車上プラントより配管しているが、ホースを4tユニック車に固定していたため、ボーリングマシンが車両側に引っ張られ転倒した、この際に、転倒したボーリングマシンが被災者の右足甲部に乗りかかった。被災者は安全長靴をはいていたが、右親指の複雑骨折と診断された。	32	30 ～ 49
10	16～ 17	下水道管布設工事中、土止めを撤去しアルミ板を引き抜いたところ、隣接している土が崩壊、中に居た労働者が土砂に埋まってしまい、レスキューを要請し、病院に搬送したが翌朝死亡。	59	1 ～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html